



こんにちは♪

日本共産党市議会議員

小野寺ゆきえです!

民主 苦小牧号外
2026年
2.22
No.1130



平和と暮らしと民主主義を守るために

また、2月議会、そして予算委員会の時期が来ました。総選挙に引き続き、休みなく活動中です。2月議会の定番は代表質問です。選挙が終わった9日から準備を始めました。通常年であれば、お正月が終わった頃から質問を作り始め、続いて予算委員会の準備へと続くのですが、今回はだけは選挙活動を止めるわけにいかず、質問準備は遅めのスタートとなり、焦りがありました。

13日は代表質問の氏名通告でした。誰が代表質問を努めるか、名前を報告することです。通告締め切りは午後12時です。12時を過ぎると変更はできません。通告を済ませた当日の午後2時、父が入院している病院から電話が入り、「意識がなくなった」と知らせがありました。

頭が真っ白になりました。父が死ぬかもしれない悲しさと、代表質問をどうしようという2つのことが頭を駆け廻りました。

議会の部屋に一緒にいた原啓司議員に、「通告者以外の議員が代理で質問できるかどうか調べて」とお願いし、病院へ急ぎました。結果的に、父が亡くなった時は代理が可能となり、ホッとしました。

父は、病院の適切な処置のおかげで、何とか持ち直してくれました。しかし、いつどうなるかわからないということです。この時から「直ちに代表質問を仕上げなければ」と質問づくりに没頭し、何とか形になったのが16日の朝でした。その後、市議団のみんなに読んでもらい、最終形にします。父も頑張ってくれています。

先週号でお知らせしたように、代表質問の大きな柱に「平和」を据え、『民主主義と平和』と、高市氏が強調する『“責任ある積極財政”と物価高対策』とし、高石氏の悪政からどうやって命と暮らし平和を守るか、市議会から声をあげ、市政を動かし、国に意見する、そんな流れをつくる質問にしたいと思っています。

「民主主義」では、選挙制度についても指摘します。総選挙では、自民党は36%の票しか得ていないのに、3分の2の議席を取りました。議席につながらない死票が多いのが小選挙区制度の特徴です。それなのに、「国民の信任を得た」と高市氏に好き勝手にされては、民主主義が壊れてしまいます。なので、選挙制度を変えることは重要です。

父は、病床で最後の投票をしてくれました。1日でも長く生きてくれることを祈り、頑張りたいと思います。